

連載

本市は国際認証制度であるセーフコミュニティ認証の取得を目指しています。

セーフコミュニティ いずみおおつ

第
19
回

本市の安全に必要なことは？ 具体化する取組み



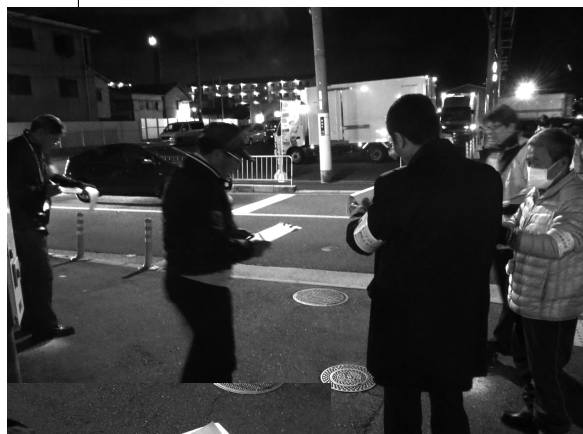
3 対策委員会の合同会議

**みんなで探す安全・安心
～3 対策委員会合同会議～**

12月18日に交通安全対策委員会・子ども安全対策委員会・高齢者の安全対策委員会の3対策委員会で合同会議を開催しました。各自の意見や、対策委員会で検討している取り組み内容について報告し合いました。

「新たに何かをすることも大切だが、既存の事業で何か使えるものはないか検討したい」という委員の意見を受け、市から自転車用ヘルメット購入助成事業などを説明するシーンもありました。

また、子どもの安全対策委員会が市内全小中学校を対象に実施している危険箇所アンケートの紹介があり、「その結果を基に危険箇所を絞り込みたい」との意見がありました。



**本当に暗いの！？夜の街
～犯罪防止対策委員会～**

11月27日、犯罪防止対策委員会で、市内の暗がり箇所の現地調査を行いました。道路の明るさの度合いを委員会メンバーが実際に見て4段階で評価するもの。委員からは「門灯がついていない家が多い」「全体的には防犯灯は整備されているが暗い箇所もある」「空き地が暗くて危険」などの意見が出ました。また、実際に歩いてみてわかった問題点などもあげられていました。

他にも、自転車の盗難が多いという本市の重点課題を踏まえ、駅前などで自転車の施錠状況を調査しました。



犯罪防止対策委員会が夜の本市を視察。明るさなどを実際に確認しながら評価しました

バナーフラッグ



**遂に泉大津駅にまで進出！
～普及啓発グッズ～**

10月から駅前に新たなセーフコミュニティ普及啓発グッズが仲間入りしました！

駅西側にはバナーフラッグ（左写真）を、駅東側には横断幕（下写真）を設置しました。



横断幕

着実に安全・安心の輪が広がっています！

より安全な泉大津市のためには、まず実情をしっかりと把握することが大切です。そのためには、地域のことをよくわかっている市民の皆さんが問題点を共有することが大切です。そのうえで、より多くの人が対策に関わることが地域の安全にもつながり、安心感をもたらします。

安全・安心は目に見えませんが、問題点とそれに対する対策を「共有」することで、安全・安心の輪が広がっていきます。今、そのための土台づくりが着々と進んでいます。



JISC代表理事
白石陽子氏のコメント